

弁 殿 御 消 息

文永九年七月二六日 五一歳

此の書は随分の秘書なり。已前の学文の時も、いまだ存ぜられざる事粗^{ほぼ}之^のを戴す。他人の御聴聞なからん已前に御存知有るべし。

総じてはこれより^具ぐしていたらん人^依にはよりて法門御聴聞有るべし。互^{たが}ひに師弟と為らんか。恐々謹言。

七月廿六日

日 蓮 花 押

べんどの だいしん あじゃり ごぼう さんみどの
弁殿 大進阿闍梨御房 三位殿

不審有らば^{じょうろん}諍論無く書き付けて至らしむべし。